



冬季休業前から行う長欠・不登校児童生徒への支援と新たな不登校を生まない取組

冬季は児童生徒の遅刻や欠席が増えやすい時期です。支援が必要な児童生徒を把握し、一人一人に応じた対応を確実に行いましょう。

状況の把握

視点1 学校生活の観察や個人面談により把握する

例・保健室利用が増えている。・成績が急に下がっている。・提出物が出にくくなっている。
・家庭環境の変化がある。・生活ノートや道徳等の記述に友達関係等の変化が見られる。

視点2 心理アンケートや学校生活アンケートにより把握する

例・Q-Uの調査結果で、学校生活不満足群や非承認群に位置付いている。
・アセス、i-Check、いじめ等の学校生活に関わるアンケートでネガティブな回答をしている。

視点3 月別の欠席数により把握する

例・遅刻や早退が増えている。・2学期の欠席日数が増加している。・長期休業明けに欠席経験がある。

全職員で共有

冬季休業前の支援

- ・個別面談により、友人や学習、保護者等に関する心配事や不安を共感的に聞き、安心感を与える。
- ・休業中の過ごし方を一緒に考え、生活や学習に見通しと目標を持てるようにする。

冬季休業中の支援

- ・保護者と協力し、起床や就寝、学習等の生活リズムを整える。
- ・始業式前の家庭訪問や電話連絡により児童生徒の不安や願いを聞き、3学期の生活について安心感や期待を持たせる。

冬季休業後の支援

- ・休み始めの対応を適切に行う。
 - 児童の欠席に対して敏感、かつ温かく対応する
 - 1日目**→児童生徒が安心して休みまた登校できるよう、教員が電話等で声を掛ける。
 - 2日目**→保護者に連絡して、欠席理由を再確認する。状況によっては、担任等が家庭訪問をして、児童生徒の状況を確認する。
 - 3日目**→家庭訪問を行う。児童生徒と話し、様子を確認する。保護者に最近の様子について聞き取る。